

Adobe Sign を基盤にリモートワークへ対応した 電子契約ソリューションを開発



「コロナ禍のリモートワーク促進に、Adobe Sign による
新ソリューションが大きな役割を果たしています」

日本ビジネスシステムズ株式会社 モダンワークプレイス本部 クラウド開発部長 森 則慶氏

導入製品

- Adobe Sign

導入メリット

ペーパーレスによる 業務の省力化



数十ページに及ぶ契約書の出力・製本・
押印が不要に

電子化による 契約手続きの簡素化



郵送による契約書のやり取りや、ファイ
リングが不要に

契約書発行から締結まで 大幅な時間短縮

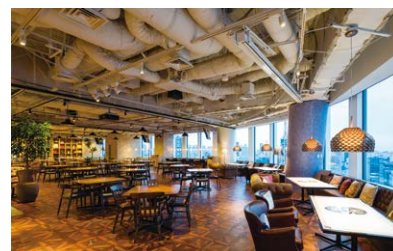


2週間程度掛かっていた契約書発行から
締結までが劇的に短縮

社内契約合意などには Megaサイン機能を活用



福利厚生利用などの
社内手続きがスムーズに完了



日本ビジネスシステムズ株式会社

IT プロフェッショナルとして顧客の成功
と豊かな社会づくりに貢献することを旗
印に、ビジネスの価値をさらに高められる
ITソリューションを提供。デジタルトラン
スフォーメーションを実現するソリュー
ションとサービス提供に注力している。



情報システム部長
稲葉 祥紀氏

企業の DX を支援するシステムインテグレーターである日本ビジネスシステムズ株式会社は、
コロナ禍のリモートワーク移行を受け、Adobe Sign と Microsoft 365 を組み合わせた新たな電子
契約ソリューションを開発。リモートワークへの対応と共に、ペーパーレスによる作業省力化、
契約手続きの簡素化、内容確定から締結までの時間大幅削減などの成果を挙げている。

■ 導入の経緯

Customer First を企業理念に DX を支援

日本ビジネスシステムズ株式会社は IT プロフェッショナルとしてコンサルティングから設計、構築、運用、
利活用までを一貫して提供するインテグレーターだ。“Customer First” の理念のもと、金融、製造・物流、公
共、サービスをはじめとする多様な顧客に最適な IT ソリューションサービスを提供。近年は、クラウドソリュー
ションを基盤に、オンプレミスとクラウドの双方が語れるクラウドインテグレーターとしても高い評価を得る。

同社の契約業務は長年、紙の契約書をベースとして行われてきた。業務システムを開発するという特徴も
あり、契約書は最大で数十ページに及ぶ。加えて秘密保持契約（NDA）や反社会的勢力排除条項などが加わ
るため、その製本や捺印に必要な労力は決して小さくなかった。

「特別な依頼がない限り、紙の契約書を作成して押印した後に営業担当が持参する、もしくはお客様に郵
送して契約手続きを進めていました。月平均 400 件ほどの契約業務の電子化は以前から検討はしてしまし
たが、移行にはお客様の理解も必要になるため、導入の決め手には欠けていたというのが正直なところでした」
と総務部 法務・コンプライアンス課 担当課長の佐藤 愛子氏は当時を振り返る。

■ 選択のポイント

コロナ禍を受け、Adobe Sign を基盤とした電子契約に移行

しかしコロナ禍でリモートワークが普及し、接触機会の削減という観点からも、契約業務の電子化を早急



モダンワークプレイス本部
クラウド開発部長
森 則慶氏



総務部 法務・コンプライアンス課
担当課長
佐藤 愛子氏



総務部 法務・コンプライアンス課
主任
柿島 直樹氏

USER PROFILE

日本ビジネスシステムズ株式会社

<https://www.jbs.co.jp/>

所在地：東京都港区虎ノ門1-23-1 虎ノ門
ヒルズ森タワー 16F

創業：1990年10月

資本金：5億3,963万円

従業員数：2,250名（2020年10月）

事業内容：マイクロソフトクラウドサービス
などを活用し、お客さまのパフォーマンス
を最大化するコンサルティングおよびIT
サービスを提供。

詳細情報

<https://acrobat.adobe.com/jp/ja/sign.html>



アドビ株式会社
〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2
ゲートシティ大崎イーストタワー
www.adobe.com/jp/

Adobe
345 Park Avenue
San Jose, CA 95110-2704
USA
www.adobe.com

に進める必要が出てきた。電子契約への移行を決断した同社が基盤として採用したのがAdobe Signである。新たな印鑑レスソリューションを法務部門と共に設計・構築した情報システム部長の稲葉 祥紀氏は理由をこう説明する。

「理由は大きく2つあり、ひとつはMicrosoft 365をは

じめとするマイクロソフト製品との親和性の高さです。マイクロソフト社と密に連携して事業を行うため、これは非常に重要なポイントでした。もうひとつがAcrobat文書ファイルとのシームレスな連動です。この2点を決め手にAdobe Sign導入を決定しました」

導入にあたりMicrosoft 365と連携した電子契約の仕組みを構築。モダンワークプレイス本部 クラウド開発部長の森 則慶氏はその仕組みをこう説明する。

「契約書の決裁を受け、まず当社の法務部門が顧客担当者にAdobe Signを使って電子サインを依頼します。その際のアドレス検索は、顧客管理システムの情報に基づいて行います。Adobe Signの電子署名をトリガーに契約ドキュメントがSharePointに自動保存される仕組みです」

さらに契約書にサインが行われると、営業担当に即座に通知されることもその大きな特長だ。これにより契約手続きの進捗を営業担当もリアルタイムで認識できるようになった。

■ 導入効果

契約締結までのリードタイム大幅圧縮で内容精査の時間もさらに得られる

新システムのリリースは2020年8月。運用開始から4ヵ月を経たが社内の評価は上々だ。

「以前とやり方が大きく異なるため、当初は戸惑いの声が出ることも想定していましたが、むしろ製本や郵送もなく、Adobe Sign上で契約手続きを終えられるので助かるという意見が多く寄せられています。また印紙税が不要になることも高く評価されています」（稲葉氏）

これまで契約書送付後2、3週間掛かることが一般的だった手続きが電子化によって瞬時に終わられるようになったことも大きい。総務部 法務・コンプライアンス課 主任の柿島 直樹氏は語る。

「案件によって、『2週間後にビジネスを開始したい』との要望もあるのですが、その際は時間に追われながら契約内容を固める必要がありました。しかし、電子契約であれば時間に余裕が生まれる分、内容を精査しながら交渉することが可能になります。1点、運用において注意しているのは、電子契約はメールアドレスで本人認証を行うため、署名者のアドレスが必要になることです。署名者が先方の担当者とは異なることも多いため、電子契約への移行ではご説明した上で、署名者様のアドレスを提供いただいています」（柿島氏）

社宅契約など福利厚生利用手続きには「Megaサイン」機能を活用

Adobe Signは社宅利用契約改定への入居者合意など、社内手続きにも活用されている。社宅入居者は約300名で、紙の手続きでは人事総務部門に負荷が掛かる。そこで活用したのが、「Megaサイン」機能だ。

「Megaサインは、CSV形式のメールアドレスを読み込み、定型化された契約手続きを一括配信し、同意を得ることができる機能です。総務部門にCSVファイルを用意してもらうことで、約300名への合意依頼手続きが5分ほどで完了しました。コロナ禍で在宅勤務が主流となった今、効果は非常に大きいです」（稲葉氏）

■ 今後の展望

Adobe Signを基盤に独自開発した電子契約ソリューションを広く提供

現在、同社が独自開発した電子契約ソリューションを体験・評価できるサービスも提供している。「Adobe Sign × Microsoft 365ペーパーレストライアル」の名称で、多くの企業が導入しているMicrosoft 365をAdobe Signと連携するもので、ポイントはクラウドサービスを組み合わせたシステム構築がスピーディーに行える点だ。

「Adobe Signとお客側で導入済みのMicrosoft 365を当社のテンプレートと組み合わせ、お客様のビジネスに即した契約書類作成から押印・保管まで、オンラインで完結するシステムを最短10日ほどで構築可能です。コロナ禍のリモートワーク促進や郵送事故、情報漏えい回避にぜひご活用いただきたいと考えています」（森氏）

“捺印のための出社”が論じられる昨今、Adobe Signの導入がスタンダードになっていくことは間違いない。

※掲載された情報は、2020年12月現在のものです。

法務部門電子サインシステム構成図

